

大学祭用 災害・危機対応マニュアル

2025 年度 改訂版

文責 中山佳名子

本マニュアルは、災害時の非常事態が発生した際、安全確保及び二次被害防止を目的に初期対応について記載する。大学祭の継続・中止に関しては大学祭実行委員会が判断するが、非常事態に対する最終的な判断や対応は大学に従うものとする。

1、避難場所と避難経路



 … 一時避難場
  … 災害対策本部
  … AEDの設置場所

 … 最終避難場

大学祭中の災害対策本部は A216 になります

一時避難場所：エスカレーター前・C5棟前・K（音楽）棟前・みんなの広場

最終避難場所：陸上競技場

※災害発生後、それぞれの現在地から一時避難場所に避難し、その後実行委員の指示に従って最終避難場所に避難する。

一時避難場所と避難する人（目安）

エスカレーター前へ避難 → 飲食出店エリア・飲食スペース・A棟 1階にいる人

C5棟前,K棟前へ避難 → C5棟前・アイリス前ステージ・A棟 2.3階・食堂横の駐車場にいる人

みんなの広場へ避難 → サークル棟・サークル棟前駐車場にいる人 避難誘導の担当（実行委員のシフト）

エスカレーター前にいる人の誘導 → 衛生本部・エスカレーター前受付シフト

C5棟前,K棟前にいる人の誘導 → 本部・ステージシフトみんなの広場にいる人の誘導
→ 駐車場受付シフト

A棟内にいる人の誘導 → 見まわり・本部シフト

※基本的に災害発生時にいた場所に近い一時避難場所へ避難する。

2、発生時直後の対応

<地震>

▶テントブース

1. 直ちにテントから出て、揺れが収まるのを待つ。
2. 揺れがおさまったら A 棟前・AB 間の A 棟側で出店していた団体は A 棟 1 階へ、
AB 間の B 棟側で出店していた団体は B 棟 1 階へ避難。
3. 貴重品や私物等はいったん放置⇒揺れがおさまったら取りに行く。
4. 実行委員の指示に従い、一時避難場所へ避難する。
テントは放置。

▶野外ステージ（C5 棟前・アイリス前）

1. 演者・観客・PA テント内にいる人は直ちにステージ・テントから離れる。
2. 貴重品や私物等は一旦放置⇒揺れがおさまったら取りに行く。
3. 実行委員の指示に従い、一時避難場所(p2 参照)（C5 棟前ステージにいる人はその場で待機）に避難する。テントは放置する。

▶講義室・屋内ステージ

1. 直ちに机の下に隠れる。机を使用しない団体は教室の中心に集まり頭を守る。
2. 最低限の貴重品等を持って実行委員の指示に従い、一時避難場所へ避難する。

津波の危険性大学が津波自体の被害を受ける可能性は低いですが、大和川等に津波が遡上し氾濫が起きる可能性がある。なるべく奈良側へ、川などがある方向には行かない。

この危険性を考える意味でも、**下山はしない。**

※一時避難場所への避難が完了し、人数や負傷者の有無などを確認できたら実行委員の指示に従って最終避難場所へ避難する。

※地震発生時、大学棟内に避難できない人はすぐに近くの一時避難場所や周りに建物等がない場所に避難する。

<火災>

▶テントブース

1. 一旦テントから離れる。
2. 火元が確認できるくらい視界がはっきりしている場合 } 消火用バケツの水で
炎が背丈以下・テントの屋根に達していない場合 } 初期消火を行う。
火元が確認できない・視界がきかない場合 } 直ちに一時避難場所へ
炎が背丈以上・テントの屋根に足している場合 } 実行委員に連絡する。
3. 火災の規模が大きい場合、周辺テント内にも大声で知らせ、活動も一時中断する。
プロパンガスの元栓を閉め、一時避難場所へ避難する。

☆実行委員事務担当が消火対応・安全確認を行う。

▶屋外ステージ（C5棟前・アイリス前）

1. 演者・観客・PA テント内にいる人は直ちにその場を離れる。
2. 一時避難場所（C5棟前ステージにいる人はその場で待機）へ避難し、実行委員の指示に従う。

▶講義室・屋内ステージ

1. 窓や出口以外の扉を閉め、直ちに部屋から出る。
2. 一時避難場所へ避難し、実行委員の指示に従う。

※火災の避難が甚大な場合、一時避難場所への避難が完了し、人数や負傷者の有無などを確認できたら実行委員の指示に従って最終避難場所へ避難する。

<不審者>

▶テントブース・屋外ステージ・講義室・屋内ステージ共通

1. 身の安全を確保する。
⇒不審者の視界から外れる・貴重品を身に着ける・教室の施錠等
2. 実行委員に連絡する。
⇒電話や本部に来る等直接連絡できない場合、公式 LINE またはオープンチャットを使用する。

☆実行委員は連絡を受けたら直ちに課外活動係へ報告する。 ※不審者…カメラを向けてくる・執拗に話しかけてくる等も含む。些細な行動でも怪しい・不自然だと感じた場合は直ちに実行委員へ連絡する。

※不審者を刺激しないことを心がける。

※近年増加傾向にあるため、特に注意する。

<停電>

▶テントブース・屋外ステージ・講義室・屋内ステージ共通その場で復旧を待つ。

☆電力使用団体への対応は実行委員事務担当が主導で行う。

<水害>

① 雨量に伴う影響の確認について

・雨が降ってきた際に、巡回担当が雨の強さ及び雷の有無について確認する。また、本部からも屋外の天候について確認する。

・天候担当は基本的に気象庁のデータを基に判断を行う。なお、ウェザーニュースやYahoo! 天気等を活用する。

② 実行フローについて

1. 天候確認を行い、危険度判断を行う(天候担当、会場担当)
2. 委員長,天候担当,課外活動係の3人で協議する。
3. 判断を全体周知(オープンチャット)を行い、同時並行で新入生及び来場者の誘導(メガホン等を用いて声掛けを行う)、SNS 告知、声掛けにより避難させる。備品及び立て看板等は後回しで、人命を優先すること。

③各種判断基準について

基本的には「主観」で判断を行うこととする。なお、状況に応じて以下の対応を行う。
前日の開催の判断は15:00の気象庁のデータをもとに課外活動係と協議の上、18時に連絡をする。

1.当日

1.1 小雨の場合(=短時間,安全に支障なし)

基本的に営業を続行する。必要に応じてオープンチャット等を用いて周知する。

1.2 大雨の場合(=機材及び安全に支障あり)

(1)風を伴う場合

今年度の五月祭に関しては、土曜日(現段階 5/12)に大雨が降った場合、翌日が曇り(現段階 5/12)の可能性が高いため、全面中止する。その際、ガスと元栓を1回生にチェックしてもらい、貴重品等を持ってA棟へ避難するよう誘導を行う。事務担当及び広報担当はガス及び元栓をチェックし、A棟への避難誘導に努める。

各ステージでは、基本的に人命優先でA棟への避難を誘導し、同時に重要な機材を屋根のある場所へ移動させる。C棟前及びアイリス前で誘導する人が来たら、PA担当は機材の運搬に専念する。

(2)風を伴わない場合

上記と同様の対応を行う。なお、避難誘導が済み次第、立て看板や備品等をA棟側へ避難させる。各ステージでも上記と同様の対応を行う。

1.3 雷を伴う気象状態になる場合 または 警報が発令された場合

②実行フローを基とし、ガスと元栓を1回生にチェックしてもらい、貴重品等を持ってA棟へ避難するよう誘導を行う。また、PA担当は即時避難を行う。

【各部門のフロー】！重要！

▶テントブース

1. 音が聞こえる
2. 火を消し、元栓が閉まっているかどうかを確認でき次第、A棟に避難する
3. 実行委員会の指示に従う。実行員会の消火担当は火がきえているかと元栓が閉まっているかを確認する。

▶屋外ステージ（C5棟前・アイリス前）

1. C5棟前ステージ付近にいる人は事務局棟へ、アイリス前ステージ付近にいる人は大学会館内へ避難。
2. 実行委員の指示に従う。

A.実行委員が活動中止を全体へ知らせた場合、パフォーマンスの区切りの都合がよいところで一時中断する。

⇒・活動中止の判断は上記の実行フローに準ずる。

- ・急激な大雨等の場合はパフォーマンスの都合に関係なく直ちに一時中断する。

B. 身の安全を確保した上で、屋内ステージへ順次移動する。

※実行委員が一時中断の指示を出す前に団体の判断で屋内ステージへの移動を希望する場合はその時点で移動する。

※来場者や団体への情報伝達を確実にを行うため、テントブースの飲食出店が中断している間はステージ企画も活動を中断する

▶講義室・屋内ステージ

1. その場で待機する。
2. 実行委員の指示に従う。

※来場者や団体への情報伝達を確実にを行うため、テントブースの飲食出店が中断している間は屋内企画・ステージ企画共に活動を中断する。

2. 前日

- 2.1 前日時点で、降雨量が 10mm 以上または風速 5m/s と予想される場合
委員長及び課外活動係で協議を行い、判断を行う。(基本的には中止)
- 2.2 事前に台風の接近が考えられる場合(警報級の災害を含む)
委員長及び課外活動係で協議を行い、判断を行う。(基本的には中止)

※参考：風雨による大学祭中止の基準

天気予報にて「予想降雨量 10mm 以上、予想風速 5m/s 以上」である場合

テントにおける被害のイメージ↓

1時間雨量 (mm)	予報用 語	人の受けるイメージ	人への影響
10以上～ 20未満	やや強 い雨	ザーザーと降る	地面からの跳 ね返りで足元 がぬれる
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしてい てもぬれる
30以上～ 50未満	激しい 雨	バケツをひっくり返 したように降る	

風速(m/s)	陸上での目安	海上での目安	使用判断
1.6～3.3m	顔に風を感じはじめ、 木の葉が動き出す	波頭が白く立つ、一面 さざ波	安全に使用可能だが少し 注意が必要、 風対策が必 要
3.4～5.4m	葉っぱや小枝が絶えず動 いている	さざ波の波頭が砕け始 める、白波が現れ泡が 硝子のようにみえる	使用可能だが注意が必 要、 風対策無しでは難し い

特記事項

- ・上記の内容は基本的な初動対応の概要です。非常事態発生時には実行委員が速やかに指示を出しますので、その指示に従ってください。
- ・全体への指示は実行委員が管理する各大学祭専用のオープンチャットでメッセージを送信します。団体への個別連絡が必要な場合は公式 LINE を使用しますので、すぐに返信できるようお願いいたします。